

海外研修生が安藤氏と対面



大阪府国際交流財団が実施している「大阪府海外短期建築・芸術研修生招聘事業」の研修生 8人が13日、大阪市にある安藤

総合力で考え組み立てを

忠雄建築研究所を訪問した。写真。安藤忠雄氏は研修生と意見交換し、建築以外のことも幅広く学んでおく必要性などをアドバイスした。

同事業は建築や芸術を専攻している海外の若者を招き、日本

大阪府国際交流財団

の建築・芸術を学んでもらうことを目的に毎年実施している。

今回はインド、インドネシア、タイ、中国、バンダラアシュ、フィリピン、ベトナムの若者が9月22日から10月19日までの約1カ月間、大林組、錢高組、竹

中工務店、大和ハウス工業、大阪府で研修を受けるほか、安藤氏が手掛けた近つ飛鳥博物館や可馬遼太郎記念館、淡路夢舞台なども見学する。

8人は所員の案内で事務所内を見学した後、安藤氏と対面。

安藤氏は「建築では総合力が求められる。経済、芸術、地球環境、世界情勢、歴史などさまざまなことを頭に入れ、自分の考えを組み立てなければならぬ」「常に自分から何かを仕掛けていくことを意識してもらいたい」などのアドバイスを送った。